

第2章 千葉市の文化財の概要

1 文化財の指定・登録状況

(1) 指定等文化財

文化財保護法、文化財保護条例に基づいて指定等されている文化財は、国指定等が 15 件(うち 1 件は特別史跡、1 件は特別天然記念物、1 件は記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財)、県指定が 35 件、市指定が 51 件、国登録が 9 件、千葉市地域文化財(市登録)が 10 件、計 120 件あります。

千葉県登録制度は、令和 4(2022)年の千葉県文化財保護条例改正に伴って新設されました。千葉市内は現在 0 件であるものの今後類例の増加が見込まれます。

千葉市地域文化財は、平成 19(2007)年の千葉市文化財保護条例改正に伴って新設された登録制度で、一定の区域にとって歴史上、学術上、芸術上又は鑑賞上価値の高いものや一定の区域における生活の推移の理解のために欠くことのできないもの、又は市指定文化財に準ずる価値を有する文化財をその対象としています。県内市町村の中で文化財の登録制度を設けている自治体はまだ少なく、先進的といえます。

千葉市の指定等文化財件数(令和 7(2025)年 8 月現在)

類型	種別		国指定・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	県登録	市登録※1	合計
有形文化財	建造物		0	－	3	6	8	0	1	18
	美術工芸品	絵画	1	－	7	0	0	0	0	8
		彫刻	1	－	3	16	0	0	0	20
		工芸品	3	－	4	3	0	0	0	10
		書跡・典籍	0	－	2	0	0	0	0	2
		古文書	0	－	1	2	0	0	2	5
		考古資料	0	－	2	8	0	0	0	10
		歴史資料	0	－	0	1	0	0	1	2
無形文化財		0	0	2	0	0	0	0	2	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	－	0	1	1	0	0	2	
	無形の民俗文化財	0	1	2	1	0	0	4	8	
記念物	遺跡	5※2	－	6	12	0	0	2	25	
	名勝地	0	－	0	1	0	0	0	1	
	動物、植物、地質鉱物	4※3	－	3	0	0	0	0	7	
文化的景観		0	－	－	－	－	－	－	0	
伝統的建造物群		0	－	－	－	－	－	－	0	
合計		14※2・3	1	35	51	9	0	10	120	

文化財の保存技術	0	—	0	0	—	—	—	0
----------	---	---	---	---	---	---	---	---

※1 千葉市地域文化財

※2 うち 1 件は特別史跡

※3 うち 1 件は特別天然記念物

(2) 未指定文化財

指定等文化財のほか、これまでの把握調査で確認した未指定の文化財があります。これらは、文化財保護法や条例による保護はなされていないものの、文化庁、千葉県、千葉市による調査で把握されてきました。また、市内博物館等施設に収蔵されているもの、平成20(2008)年度に千葉県により選定されたちば文化的景観や昭和 59(1984)年度から千葉県が独自に指定している千葉県指定伝統的工芸品などもあります。

千葉市の未指定文化財件数 (令和 7(2025)年 8 月現在)

類型	種別	未指定	合計
有形文化財	建造物	・ 寺社：千葉県近世社寺建築緊急調査で把握したもの。 ・ 古民家：千葉市文化財調査で把握したもの。 ・ 近代和風建築：千葉県近代和風建築総合調査で把握したもの。 ・ 近代化遺産：千葉県近代建造物実態調査、千葉県産業・交通遺跡実態調査で把握したもの及び土木学会選奨土木遺産に選定されているもの。	279
	美術工芸品	・ 絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料：市内博物館等施設に収蔵されているもの(未整理は除く)。 彫刻は、千葉市内仏像彫刻所在調査、千葉県文化財実態調査で把握したものも含む。	1,914
無形文化財		・ 工芸技術：千葉県指定伝統的工芸品(故人を除く)になっているもの。	5
民俗文化財	有形の民俗文化財	・ 石造物：千葉県石造文化財調査、千葉市金石文調査で把握したもの。 石造物は、一部有形文化財に該当するものもあるが、民俗文化財に一括して分類した。 ・ 民具：市内博物館等施設に収蔵されているもの(未整理は除く)。 ・ 絵馬：千葉県文化財実態調査で把握したもの。 ・ 民俗芸能の道具：千葉市の民俗芸能調査で把握したもの。	1,164
	無形の民俗文化財	・ 祭り・年中行事：千葉県祭り・行事調査で把握したもの。 ・ 民俗芸能：千葉市の民俗芸能調査で把握したもの。 ・ 伝承：『千葉市史』編さんに伴って把握したもの。	51
記念物	遺跡	・ 埋蔵文化財包蔵地：県内埋蔵文化財基礎資料調査で把握したもの。 ・ 筆子塚：『千葉市教育史』編さんに伴って把握したもの。 ・ 近代化・産業遺産跡地：『千葉市史』編さんに伴って把握したもの。 ・ 歴史の道：千葉県歴史の道調査で把握したもの。	1,507
	名勝地	・ 自然名勝：名勝に関する総合調査（文化庁）で把握したもの。	1
	動物、植物、地質鉱物	・ 植物群落：千葉市レッドリスト、千葉県レッドデータブックで把握したもの。 ・ 古木：千葉市保存樹木台帳に掲載しているもの。 ・ 地質鉱物：千葉県地質鉱物基礎調査で把握したもの。	52
文化的景観		・ 農耕に関する景観地、流通・往来に関する景観地、居住に関する景観地：農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究（文化庁）で把握したもの。県民からの投票結果と県文化財保護審議会の意見をもとに、千葉県が選定した、ちば文化的景観。	3
伝統的建造物群		・ 千葉県集落・町並実態調査が行われたが、把握したものは現存しない。	0
文化財の保存技術		・ 把握調査は行っていないが、市内に該当する文化財はない。	0
合計			4,976

※市民ワークショップで意見のあった「大切にしていきたい「地域のおたから」」は、未指定文化財に入っていない。これについては今後文化財として保護対象とできるかを検討する。

2 文化財の概要

(1) 有形文化財

① 建造物

千葉市は、近代以降、県都・軍郷^{ぐんごう}として発展しましたが、それゆえに昭和 20(1945)年に空襲^{くうしゅう}を受け、中心市街地の 7 割が焼失しました。焼け残った旧市街も昭和 30 年代後半からの開発に伴い、戦前の建造物は多くありませんが、残った近代以降の建造物が指定等文化財になっています。

県指定文化財は、明治 41(1908)年建築の旧鉄道聯隊材料廠煉瓦建築^{きゅうてつどうれんたいざいりようしょうれんがけんちく}(稲毛区轟町^{とどろきちょう})があります。

市指定文化財の旧川崎銀行千葉支店本館^{ほんかん}(中央区中央)は、旧建物を解体せず覆うように新しい建物を建設する、韃堂^{さどう}方式によって保存しており、現在は千葉市美術館の一部として活用しています。

明治 32(1899)年に旧日本勧業銀行本店^{きゆうにほんかんぎょうぎんこう}として建築され、昭和 15(1940)年から昭和 36(1961)年まで千葉市役所庁舎であった建物は、千葉トヨペット本社(旧勧業銀行本店)(美浜区稲毛海岸^{いなげかいがん})として現在地に移築され、国登録文化財に登録されています。東京湾を望む中央区登戸^{のぶと}から稲毛区稲毛にかけての高台は、戦災を免れたため、国登録文化財の千葉市民ギャラリー・いなげ(旧神谷伝兵衛稲毛別荘^{べっそう})や市地域文化財の千葉市ゆかりの家・いなげ(旧武見家住宅^{きゆうたけ み け じゅうたく})といった、保養地であった往時を伝える建物が残っています。

近代建築は未指定文化財が多く、明治 40(1907)年建築の千葉刑務所正門・本館(若葉区貝塚町^{かいづかちょう})や昭和初期の建築である千葉県立千葉高等学校講堂(中央区葛城^{かつらぎ})、千葉大学医学部本館(中央区亥鼻^{いのな})があります。

寺社建築は、近年建て替えが進行していますが、江戸時代に建てられた大巖寺本堂・書院(中央区大巖寺町)が国登録文化財となっています。また、未指定文化財では、立川流立川富昌の作と伝えられる市指定文化財の小壁嵌板彫刻^{こかべはめいたちょうこく}が残る登渡神社本殿^{とわたり}(中央区登戸^{のぶと})のほか、金光院(若葉区金親町^{かねおやちょう})や宝泉寺(若葉区上泉町^{かみいずみちょう})には、徳川家康が鷹狩りのために造営させた千葉御茶屋御殿の北門・南門と伝わる金光院山門や宝泉寺山門があります。

幕張から蘇我^{そが}にかけての房総往還沿いに、昭和 30 年代まで茅葺の民家が並んでいました。現在、茅葺を残したものはありませんが、街道沿いには伝統的な外観の古民家が所在し、その中の 1 つである宮本家住宅主屋^{みやもと け じゅうたくおもや}(中央区蘇我)が国登録文化財となっています。



旧鉄道聯隊材料廠煉瓦建築



千葉市ゆかりの家・いなげ(旧武見家住宅)

②美術工芸品

市内には、千葉寺(中央区千葉寺町)や千葉神社(中央区院内)、栄福寺(若葉区大宮町)、稲毛浅間神社(稲毛区稲毛)などの千葉氏ゆかりの寺社、中世以前の創建と伝えられる寺社が所在し、千葉市立郷土博物館や千葉県立中央博物館、千葉県立美術館、千葉市美術館といった文化施設も充実しており、文化財が数多く所蔵されています。

絵画は、国指定重要文化財の紙本墨画鳥鷺図 長谷川等伯筆 六曲屏風(個人蔵)があります。県指定文化財の紙本著色千葉妙見大縁起絵巻(栄福寺所蔵)は、千葉氏が信仰した妙見菩薩と信仰の由来を絵と詞書で記述した絵巻で、千葉の歴史を知る上で貴重な資料です。このほか、県立美術館は、千葉県を代表する画家である浅井忠や石井林響らの作品を所蔵し、日本近代絵画史の上で重要な作品が県指定文化財になっています。

未指定文化財は、市美術館所蔵の、明治時代の稲毛の姿を描いた油彩 稲毛海岸 ジョルジュ・ビゴー画をはじめ、第二次世界大戦前の市内の景を伝える無縁寺心澄や田中一村の作品群があります。このほか、房総出身の菱川師宣を開祖とする浮世絵のコレクションは、絹本着色納涼美人図 喜多川歌麿などの肉筆画から錦絵、摺物、絵入版本まで多数を揃え、続く近代版画も含めて国内有数です。江戸絵画史上の重要作品、渡辺崋山筆 佐藤一斎像画稿や 鋏形蕙斎筆 聖代奇勝(東都繁昌図巻)などに代表される、近世絵画コレクションも充実しています。



油彩 稲毛海岸 ジョルジュ・ビゴー画



薬師如来像 (等覚寺所蔵)

彫刻は、国指定重要文化財に平安時代初期の作とされる木造釈迦如来坐像(個人蔵)があり、県指定文化財に長徳寺(緑区富岡町)所蔵の13世紀の作と考えられている木造薬師如来坐像や天福寺(花見川区花島町)所蔵の木造十一面観音立像、東光院(緑区平山町)所蔵の木造伝七仏薬師坐像があります。市指定文化財に等覚寺(若葉区高品町)所蔵の薬師如来像や月光菩薩像、宝幢寺(花見川区幕張町)所蔵の大日如来坐像や阿弥陀如来立像などがあります。指定等文化財となっている仏像の多くは平安時代や鎌倉時代の作品ですが、未指定文化財にも平安時代の作とされるものが複数あり、延命寺(中央区都町)所蔵の阿弥陀如来坐像や大聖寺(若葉区若松町)所蔵の不動明王坐像などが挙げられます。



千眼神社の鰐口

工芸品は、国指定重要文化財に刀 無銘吉岡一文字(個人蔵)や県立中央博物館所蔵の大薙刀 無銘伝法城寺があり、県指定文化財に栄福寺所蔵の金銅透彫六角釣灯籠、市指定文化財に梵鐘や千眼神社の鰐口(郷土博物

館収蔵)があります。未指定文化財に、郷土博物館収蔵の近世の火縄銃^{ひなわじゅう}や刀、鎧^{よろい}があります。

書跡^{しよせき}・典籍^{てんせき}は、県指定文化財に石井雙石篆刻資料^{いしせいそうせきてんこくしりょう}(県立美術館所蔵)、房総数学文庫^{ぼうそうすうがくぶんこ}(県立中央博物館収蔵)があります。未指定文化財は、郷土博物館で収蔵している北辰妙見^{ほくしんみょうけん}経和訓図会^{きやうわくんずえ}の版本があります。

古文書は、県指定文化財に覚性御房宛ての日蓮の書状である、立正安国会(中央区長洲)所蔵の覚性御房^{かくしやうごぼう}御返事^{ごへんじ}があります。市指定文化財の原文書^{はらもんじよ}(郷土博物館収蔵)は、千葉氏の重臣であった原氏に伝わる文書で、室町時代末期から安土桃山時代までの千葉の状況を知ることのできる貴重な史料です。また、市地域文化財の平川町内会文書^{ちやうないかいもんじよ}(郷土博物館収蔵)や稲荷神社(中央区稲荷町)所蔵の稲荷町有文書^{いなりちやうゆうもんじよ}は、近世から近代までの村の様子を伝えています。未指定文化財は、近世の妙見寺(現在の千葉神社)における寺院経営や千葉町との関係を示す旧妙見寺文書(長国寺所蔵)などがあります。

考古資料は、県指定文化財の千葉寺経塚出土^{きやうづかしゆつど}資料^{しりょう}と浅間山古墳石室出土遺物^{せんげんやまこふんせきしつしゆつどいぶつ}を県立中央博物館が所蔵しています。市指定文化財では、生浜東小学校内に所在した七廻塚古墳出土品^{ななまわりづかこふん}や縄文時代後・晩期の集落遺跡である内野第1遺跡出土の人面付土版^{じんめんつきどばん}を埋蔵文化財調査センターが所蔵しているほか、市指定史跡である猪鼻城跡^{いのなびやうあとし}(含七天王塚)の土塁中から出土した古瀬戸灰釉四耳壺^{こせとかいゆう}、常滑長頸壺^{とこなめちやうけいこ}を郷土博物館で展示・公開しています。出土資料以外では、市指定文化財の真蔵院(花見川区武石町)所蔵の武石の板碑^{たけいし}や金光院の板碑^{いたび}があります。未指定文化財は、特別史跡加曽利貝塚や指定等文化財となっている遺跡の出土資料を、加曽利貝塚博物館や埋蔵文化財調査センターで収蔵しています。

歴史資料は、市指定文化財の民間航空資料(プロペラ2枚)(郷土博物館収蔵)と市地域文化財の黒砂第一自治会所有(稲毛区黒砂)の黒砂分教場の記念碑^{くろすな}があります。未指定文化財は、近・現代の千葉を見る上で貴重な絵葉書・古地図・刊本類が入った加藤博仁氏収集資料(郷土博物館収蔵)などがあります。



北辰妙見経和訓図会



原文書



内野第1遺跡出土 人面付土版



民間航空資料(プロペラ2枚)



指定等文化財 位置図(2)

(2) 無形文化財

陶芸^{とうげい} 鉄絵銅彩^{てつえどうさい}、日本刀^{にほんとう}の鍛錬^{たんれん}の技術保持者が県指定文化財になっています。また、未指定文化財では、節句人形^{とうかぐ}、籐家具、ちば楊枝、ちば黒文字・肝木房楊枝^{かんぼくふさようじ}、とんぼ玉があります。これらは、前述の県指定文化財とともに、千葉県が昭和 59(1984)年度から独自に指定している千葉県伝統的工芸品に指定されています。



日本刀の鍛錬

(3) 民俗文化財

①有形の民俗文化財

市指定文化財に、大舟の飾り幕^{おおふね かざ まく}があります。本資料は、市地域文化財である寒川神社^{さむかわ}の御浜下り^{おはまお}の由来である千葉妙見の祭礼で用いられた山車^{だし}の結城舟^{ゆうきぶね}に飾り付けられたとされる幕で、千葉妙見の祭礼や信仰の具体的な姿を今に残しています。

国登録文化財は、利根川中下流域の川船及び関連用具が県立中央博物館に収蔵されており、利根川の舟運や陸上輸送が発達する以前の交通・運輸を考える上で注目される資料です。



大舟の飾り幕

未指定文化財は、街道沿いの道しるべや道祖神など数多くの石造物が残っています。近世以降、講が盛んになり造立された月待塔^{つきまちとう}(十九夜塔^{じゅうきゅうやとう}、二十三夜塔^{にじゅうさんやとう})や出羽三山講碑^{でわさんざんこうひ}、富士講碑が多く見られます。また、郷土博物館や旧生浜町役場^{きゅうおいはままちやくば}庁舎^{ちやうしゃ}は、古い生活道具や農具のほか、海苔^{のり}の養殖で使用された漁業用具などを収蔵しています。

②無形の民俗文化財

生業との関わりから、市内では、海と農耕に関わる祭りや行事が多く見られます。

県指定文化財の下総三山の七年祭りは千葉市、船橋市^{ふなばし}、八千代市^{やちよ}、習志野市^{ならしの}の4つの市域から9つの神社が寄り集まって行う、安産と子育てを祈願する祭りです。由来は諸説ありますが、藤原時平^{ふじわらのときひら}の子孫が漂着して定住する海上がりの伝承や千葉氏の一族である馬加康胤^{まかわやすたね}の奥方の懐妊に際し、海辺に下りて安産祈願をした浜降り^{はまお}の伝承が知られています。

市内各地域に、生活と深く関わる民俗芸能が伝承されています。県指定文化財の浅間神社^{かぐら}の神楽をはじめ、江戸神楽の影響を受けた神楽やお囃子^{はやし}が見られ、現在も地域の神社へ奉納されたり、祭・行事で披露され、地域の繁栄と住民の親睦に寄与しています。



浅間神社の神楽

神輿が海岸に出て潮水を浴びる祭事、房総のお浜降り習俗は、五穀豊穰や大漁を祈願して行われ、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されています。千葉市域では、市地域文化財、寒川神社の御浜下りが行われています。

未指定文化財の妙見大祭(だらだら祭り・太鼓祭り・裸祭り)は、千葉氏とゆかりのある千葉神社の祭礼で、中世から行われている地域で重要な祭礼です。ほかにも、千葉氏に関わりのある祭礼が多く継承されています。また、千葉寺十善講^{じゅうぜんこう}や花島観音講^{はなしまんのんこう}といった地域の民間信仰が伝えられています。さらに、古くから羽衣^{はごろも}の松やお茶の水といった伝承が地域の中で語り継がれています。

(4) 記念物

① 遺跡

千葉市内の遺跡は、特別史跡加曽利貝塚(若葉区桜木^{さくらぎ})をはじめ、国指定文化財5件のすべてが縄文時代の貝塚です。また、県指定文化財2件、市指定文化財1件の貝塚が指定されており、千葉市が全国一、大型貝塚の集中する貝塚密集地であることを物語っています。

県指定文化財の大覚寺山古墳^{だいかくじやまこふん}(中央区生実町^{おゆみ})や荻生道遺跡^{おぎゅうみち}(緑区小食土町^{やさしどちよう})、市指定文化財の猪鼻城跡(含七天王塚)(中央区亥鼻)や千葉御茶屋御殿跡^{ごてんちよう}(若葉区御殿町)など、縄文時代以降の遺跡も数多くあります。

未指定文化財の遺跡も各時代を通して確認されており、園生貝塚^{そののう}(稲毛区園生町^{そののうちよう})や鳥込貝塚^{とりばみ}、鉄砲塚古墳^{てっぽうづか}(花見川区幕張本郷^{まくりほんごう})が挙げられ、それらは市街化が進む中で地域住民によって守られてきた歴史があります。市内には県内有数の1,336件の埋蔵文化財包蔵地があり、区ごとに見ると若葉区が最も多く、次いで緑区、中央区が続きます。なお、区域全域が埋立地である美浜区には埋蔵文化財はありません。

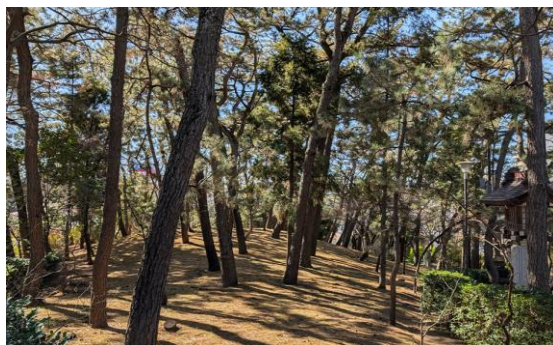


千葉御茶屋御殿跡

② 名勝地

市指定文化財の稲毛の松林があります。稲毛浅間神社の境内を含めた丘上一帯が指定地になっており、かつてはすぐ近くまで波が打ち寄せた眼望絶景の地でした。

未指定文化財の稲毛・検見川^{けみかわ}周辺の旧海岸^{とあさ}景観は、かつては遠浅で潮干狩や海水浴で賑わい、明治・大正時代は、海岸に面した別荘地としても知られていました。戦後の埋立てによる都市開発が進んだ現在も、かつての面影を見ることができます。

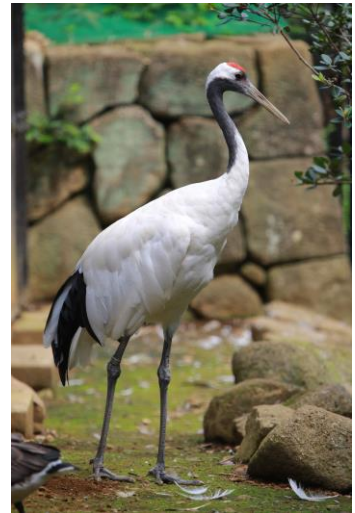


稲毛の松林

③動物、植物、地質鉱物

市内には希少な動物の飼育も行う千葉市動物公園や千葉県の自然と歴史に関する総合博物館である県立中央博物館といった研究機関があります。

市動物公園は、特別天然記念物のタンチョウ、国指定文化財のオジロワシやトゲネズミを飼育しています。また、県立中央博物館は県指定文化財の袖ヶ浦市吉田野の清川層産出の脊椎動物化石を収蔵・展示しています。植物は、中央区千葉寺町に所在する千葉寺境内にある千葉寺ノ公孫樹が県指定文化財に指定されているほか、元東京大学検見川厚生農場(現東京大学検見川総合運動場)内から発掘された古代ハスである、検見川の大賀蓮が県指定文化財及び市の花に制定されています。



タンチョウ

未指定文化財は、クロマツ群落が幕張から稲毛の旧海岸線沿いに見られるほか、稲毛浅間神社の森といった寺社関連のものが挙げられます。

(5) 文化的景観

指定等文化財はありませんが「千葉市幕張新都心の都市景観と稲毛・検見川周辺の旧海岸景観」、「千葉市大草の谷津田景観、四街道市山梨・中台の谷津田」、「千葉市御茶屋御殿跡と御成街道の景観」の3つの市内の景観が、千葉県によりちば文化的景観に選定されています。

幕張や稲毛周辺の海辺は、埋立地の現代的なビジネス都市景観と旧海岸線付近の近代の別荘地の雰囲気同居する独特な景観を生み出しています。かつて稲毛周辺の海辺は、海水浴場や海岸に面した別荘地として賑わいましたが、戦後の埋立てにより海岸線が変化したことで、現在の海辺は、幕張メッセや千葉マリンスタジアムをはじめ、多くのビジネスビルが建ち並ぶ幕張新都心の景観へ変化しています。千葉市の歴史的背景と海辺の用途の変遷を見ることができる文化的景観といえます。

また、都川流域の若葉区大草町は、湧水、湿田、土水路が残る谷津田と周辺の山林があわせて保存されています。下総台地は、中小の河川が台地を浸食し、奥深い谷を作っており、古くから谷津田が開かれてきました。ニホンアカガエル、ヘイケボタルが生息し、雑木林・照葉樹林、竹林が残る、貴重な景観が保存されています。



大草の谷津田景観

御成街道は、慶長18(1613)年に、徳川家康が鷹狩りを行うために整備され、船橋から東金までをほぼ直線に結んでいます。街道周辺には伝統的な屋敷と畑が残されており、江戸時代の街道風景をしのぶことができます。



指定等文化財 位置図(3)